

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690200013		
法人名	株式会社 そよかぜ		
事業所名	グループホームそよかぜ		
所在地	鳴門市瀬戸町明神字上本城77-2		
自己評価作成日	平成28年9月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の理念の基づき「みんな仲良くいきいき生活」を目指している為、家庭的な雰囲気を大切にしている。職員間に置いても報告、連絡、相談が図れ連携が取れていることから業務や精神的にゆとりがあり結果として入所されている方達にも安心感があり、馴染みの関係を保てており気兼ねする事無く自分らしくマイペースに過ごすことができている。また、事業所内に置いては定期的な勉強会を開催し様々な知識を習得する事ができ理解出来る事、出来ないことを職員間でフォローしあい一人一人の良いところを活かして伸ばし職員の質の向上にも反映しつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海に面した建物の二階に位置しており、同じ建物の一階には通所介護事業所と居宅介護事業所を併設している。利用者や職員で地域の清掃活動に参加しており、地域の一員としての活動を行っている。事業所には、秋祭りの神輿が立ち寄ってくれている。管理者は、職員のケアに対する意見や提案を聞いている。職員間で情報の共有を密にしつつ、利用者のありのままの感情に関わることで、理念である“みんな仲良くいきいき生活”を実践している。事業所では、職員の介護力アップや身体拘束に関する弊害について研修や勉強会の機会を設けており、支援の質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人に事業所理念の紙を配布している。また、事業所内の見えるところに貼付する事で毎回勤務する際に志を確認する。申し送り時にはその旨を報告・連絡・相談に置いて共有しあうことで実践に繋げている	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。職員間で理念について話し合っている。職員は、事業所の理念“みんな仲良くいきいき生活”を支援の原点として捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きれい会や地域の清掃活動に参加し地域の人々と交流する事に努めている	事業所では、地域の清掃活動や夏祭りなどの行事に参加している。毎月、ボランティアの来訪がある。利用者と職員で、同一法人の運営する併設の通所介護事業所の行事に参加している。保育園の子どもや利用者の友人、知人との交流も支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにおいて地域の人々に認知症の方の特質、あり方支援方法を説明の上传達したり地域の方からの支援にも了承をいただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に取り上げられた内容について色々な意見を出して頂き職員に報告し実践に繋げるように努めている	事業所では、運営推進会議の出席者に“自己評価及び外部評価結果”の内容を報告しており、意見や助言を得ている。出された意見等を事業所の運営面に反映するよう心がけている。また、目標達成計画を作成し、全職員で実践するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書の提出や運営推進会議時に課題について意見を頂いており、実情などを詳細に報告することで協力関係の構築に取り組んでいる	毎月、職員は市担当窓口を訪問し現況報告を提出している。また、困難事例の発生時には、市担当者とは十分に話しあって助言を得ている。月2回、市の介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階に位置しており出ると直ぐ急な階段の為危険を伴うが施錠はしておらず毎回出入り口付近を確認しながら業務に努めている	事業所では、職員が身体拘束の弊害について正しく理解するための研修や勉強会の機会を設けている。また、利用者一人ひとりの心身の状態に応じて寄り添った支援を行いつつ、安全面にも配慮して身体拘束のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を定期的に行う事で虐待の自覚が無いことが虐待行為につながって行く事に気付き虐待が見過ごされることが無いよう注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方が入居されている為生活暦を理解し職員間で制度の必要性や役割を話し合っている。また、日常生活自立支援事業においてははまだ説明不十分であり今後も職員全体で学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不安や疑問を尋ね十二分な説明を行っており、理解や納得をいただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の訪問時は積極的にコミュニケーションをはかり様々な要望や意見を聞かせていただいている為、出来る事を反映できるように努めている為喜んでいただけている	職員は、利用者や家族とのコミュニケーションを大切にしており、意見を表出しやすいよう良い関係の構築に努めている。出された意見は全職員で検討しつつ、速やかに運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全体会議を開催し職員の意見などを聴く機会を設けている	月1回、事業所では全体会議を開催している。全職員でケアのあり方について話し合っており、必要に応じて見直すようにしている。管理者は、職員のケアに対する意見や提案を聞いている。意見や提案は日常的に聞き取り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況等に応じて理解し各自が向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で研修を受ける機会を設けているが勤務体制上参加できないこともある。研修報告は毎月の全体会議で報告している。また、職員自身が進んで研修を受けたいを思えるような環境に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価や運営推進会議で交流する機会が少なく少しずつ同業者と交流する場を作りたいと思っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族様の意見を傾聴しアセスメント、介護計画を作成。資料を基に全職員に伝達し実践し本人の安心できる環境の為に、信頼関係の構築に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や決定時に家族と連絡を密にとり、困っていることや不安な事などを聞かせていただけるような関係作りに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1階にデイサービスの利用や他のグループホームや施設利用を勧めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「遠くの親戚より近くの他人」をモットーに家族のような関係を築き、お互いが協働しながら穏やかで安心して過ごせる生活が出来るように努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた時は本人との関係を伺い、本人の気持を第一に、家族の意見や思い、要望等を傾聴し受け入れ支援させて頂いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られた際はゆっくりと対話出来るような雰囲気作りと環境づくりに留意している。また外出行事に置いては馴染みの場所へ出かけるように心掛けて支援している	事業所では、利用者の親類や知人、友人の来訪を快く受け入れており、居室などでゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。職員は、利用者の希望に応じて馴染みの場所への外出などを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に共同作業やゲームなどを通じて孤立する事が無いように心掛けて支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば相談にのったりそれらを含めた支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出来ない方もいる中で日常生活をともに送っている為、表情などからくみ取りながら適度な判断を行い現状の心身状態等の把握に努めている	事業所では、利用者一人ひとり思いや意向などを、家族の協力も得るなどして把握するよう努めている。職員は、日頃の利用者一人ひとりとの関わりを通じて、言動や些細な行動などから意向を把握しつつ、その人らしい暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話や家族との話からその方を知り参考にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録などで利用者の現状把握に努めている。出来ないことよりも出来る事に注目している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を聴き反映させるようにしている	事業所では、本人や家族の意向を踏まえ、医師や関係者の気づきや意見等を反映した介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し行い、利用者の心身の状態に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し食事水分摂取量、排泄、身体状況、精神状況、日々の暮らしの状況を記録している。情報を共有して見直し、支援に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により通院や買い物などを必要な支援は柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望によりデイサービスを利用できるように支援している。本人の希望で訪問美容師のサービスを利用して頂いている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人、家族の希望に応じ対応している。月に2回往診医により相談や協力を得て安心した医療を受けていただいている	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、訪問診療や訪問歯科診療を利用するなど、適切な医療の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月～土の朝、看護師がバイタルチェックを実施している。医療面での相談、体調不良時の状態に応じたアドバイスを受けている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐために医師と相談し施設内での対応可能な段階で退院している。出来る限り職員が見舞うようにしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を家族に説明して主治医と家族との話し合いの場を設けている。施設内で対応可能なこと、不可能な事を話して理解していただいている	契約時の段階で、重度化した場合の事業所の方針等を説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族、医療関係者間で再確認を行って方針を共有し、支援している。協力医療機関とは緊急時等の24時間連携体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着する前の応急処置や準備すべきことについては職員で対応できるように勉強している。初期対応の研修や救急救命の講習などに参加し実践力を付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の協力のもと利用と一緒に火災訓練、避難訓練、初期消火の訓練を受けている	事業所では、緊急時対応マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得るなどして、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。近隣の住民や運営推進会議の出席者にも参加を呼びかけている。災害時に備え物品を備蓄している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	実践状況	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話しやすいように地元の言葉で話しかけたり、自分で決定しやすいような言葉掛けに留意している	職員は利用者の人格を尊重しつつ、プライバシーに配慮した支援に努めている。排泄や入浴時の言葉かけなどには、特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全て決定すること無く複数の案を出して選んでいただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の場所で自由に過ごされているが食事、体操、入浴などはスタッフの都合である程度決めていところもある。本人が希望する場合は状況に応じ柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の行為は利用者に尋ね職員もともに選び準備している。しかし自己決定が困難方に対しては職員が決定している。レクの一貫としておしゃれクラブと称しマニキュアや化粧などをして頂き非常に喜ばれている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じてともに食事の下準備から後片付けまで行って頂いている。自力摂取できるよう見た目や形態、栄養バランスにも留意し食事を楽しく摂取していただけるよう努めている	利用者と職員で買い出に出かけたり、調理や机拭き、下膳などを行ったりしている。利用者一人ひとりの力量に応じて役割を担ってもらっている。利用者と職員で同じテーブルを囲み、話をするなどして食事を楽しんでもらっている。職員は見守りを中心とした支援に努めつつ、さり気ない食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量水分摂取量を記録し出来る限り本人の嗜好に合わせたものを提供するようになっているが、医師からの指示のある方に対しては主治医と相談の上柔軟に対応出来るように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の残存機能の活用に努めているが、最終的には職員が一部介助などを行い清潔保持に努めている。月に3回は歯科衛生士の方にブラッシングを実施して頂いており異変時の早期発見早期対応が図れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を必要とされている方に対しては個々の排泄記録により排泄パターンを読み取りトイレ誘導し失禁に至らないように常時心掛けています	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、日中はなるべくトイレで自立した排泄を行うことができるよう声かけや誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として運動療法、食事、水分摂取に留意している。また、それでも排泄が無い場合は看護師や医師に相談の上薬剤療法に繋げている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、午前中の中の入浴と大まかに決めてるが、あくまで入居者の心身状態に応じた柔軟な対応を基本としている。入浴の際に入浴剤を使用したり楽しい入浴になるよう努めている。	事業所では、少なくとも週に3回は入浴することができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身の状態等に応じて、入浴美や時間帯等にも配慮しており、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで自室で休息していただいたり、ホールで居眠りなど利用者さんに応じた対応で過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や往診記録、連絡ノートなど変更や服薬を理解して状態の変化に十分注意し職員間で把握出来るように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々意見や希望を聞きそれぞれに合った仕事や趣味、嗜好品などで楽しく生活が送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁な外出は難しいが季節行事(初詣、お花見、阿波踊り見学、花火、お月見)等の外出参加は可能な限り全員参加できるように努めている。また、個人的にも可能な方は買い物などで外出して頂いている	気候の良い日には、海に面したベランダで日光浴を楽しんでもらうことがある。なお、事業所では、季節の外出行事はできるだけ利用者全員が参加することができるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者の方は所持して頂いていたが置き忘れなどで把握出来なくなる事があり現在は自己管理できる方はいない。買い物の際は少額であるが本人に物品の購入、支払いを介助もと行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より手紙を書くなどの要望が無い。電話は定期的に掛けたりかかってきたのを取り次ぎなどの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは環境整備し動線上に障害物が無いように配慮している。また温かい雰囲気が出るように作品などを展示している。居間はくつろげるようにソファ、ベッドを配置し個々でくつろげるようにスペースを確保している	共用空間の大きな窓は海に面しており、また暖かい陽が射し込んでくる。ソファなどの家具の配置にも配慮しており、ゆったりと過ごすことができるよう工夫している。台所からは調理の音が聞こえるなど、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは環境整備し動線上に障害物が無いように配慮している。また温かい雰囲気が出るように作品などを展示している。居間はくつろげるようにソファ、ベッドを配置し個々でくつろげるようにスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族に使い慣れたものや馴染みのものを持参してくれるようお願いしているが、持ってこれるような物が無いと持参して下さることがあまり無い。	事業所では、本人や家族と相談し、布団やベットなどの好みの寝具を利用してもらっている。また、居室を清潔に保っており、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて出来る事、わかる事を把握して少しでも自立した生活が出来るように工夫し事故に至らないように配慮している		